



# 「シルボンヌ」全国大会 IN TOKYO 2020」開催

初の取り組みで女性の活躍促進を目指す

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会(以下、全シ協)は、初の取り組みとなる「シルボンヌ全国大会 IN TOKYO 2020」を令和二年十一月二十五日午後、東京・コンGRESクエア日本橋で開催した。

## 全国大会に約百十人が集結 ライブ配信も実施

全国の千三百を超えるシルバー人材センターでは、現在二十三万人超の女性会員が活躍している。本大会は高齢女性のさらなる活躍促進を目的に開催。運営は、令和

二年五月一日に設置した「シルボンヌ全国大会 IN TOKYO 2020 実行委員会」(以下、実行委員会)が担った。

新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナウイルス)の拡大が懸念される中で感染防止の観点から当初の予定よりも規模を縮小し、感染防止策を講じながらの実施となったが、会場には全国のシルバー人材センターから女性会員の活躍促進に取り組む役員や女性会員など約百十人が集結。来場できなかった出席希望者に向け、YouTubeによるライブ配信も行った。

### 「シルボンヌ」とは？

「シルボンヌ」は「シルバー」とフランス語の「ボンヌ」(お手伝い・親切・優れたの意味)を合わせた造語で、シルバー人材センターのイメージアップと女性会員の入会促進に向けて、公益財団法人いきいき埼玉(埼玉県SC連合)が平成30年に定めた女性会員の愛称。「シルボンヌ」を埼玉県内だけでなく、全国の会員に普及・浸透させて、シルバー人材センターのイメージ変革につなげたいとの思いで、今回の全国大会への使用を承諾した。



司会を務めた愛知県SC連合会の伊藤容子会長(写真左)、実行委員会委員長を務めた奈良県SC協議会の宇田秀子会長(写真右)

十四時、司会進行を務める愛知県S C連合会の伊藤容子会長（全シ協理事）の宣言で開会。開会あいさつに立った実行委員会委員長を務める奈良県S C協議会の宇田秀子会長（全シ協理事）は、日本の六十歳以上人口に占める女性の割合は五割を超えるが、シルバー人材センターの令和元年度実績では会員数約七十一万六千人に対して、女性会員は約三三%にとどまっている。元気に活躍できる、元気に活躍したいと望む女性が全国にはまだ大勢いると考えていると語り、「シルボノ又全国大会はシルバー人材センターの女性会員が、仕事にも、仕事以外にも元気に活躍し、生涯現役を實踐されている姿を



厚生労働省職業安定局高齢者雇用対策課長の五百旗頭千奈美氏

人でも多くの女性の皆さんに知っていただくとともに、私たちと一緒にシルバー人材センターで元気に輝いていただきたいという思いから、全国のシルバー人材センターの女性八人で実行委員会を組織し、計画しました」と開催の経緯と意思を述べた。

### シルバー人材センターに 変化の波が起きている

続いて、来賓の厚生労働省職業安定局高齢者雇用対策課長の五百旗頭千奈美氏から、年齢に関わりなく活躍できる社会をつくること、喫緊の課題となっている中で、シルバー人材センターの果たす役割の重要性と地域社会から向けられる期待はとて大きく変わっていると、「新しい就業機会の開拓が進んでいます、会員の皆さまの「やりたい」「や」できる」といった思いに寄り添う形で、今まで以上に多様な就業機会を開拓していくことが重要と考えています。こ

うした多様化の方向に進むエンジンの役割が、女性会員のシルボノの皆さまだと受け止めています」と続けた。そして、「令和元年度は十年ぶりに会員数が増え、その変化の原動力が女性会員の入会者が増えたことであると伺っています。シルバー人材センターに変化の波が起きていると感じます。シルボノの皆さまの明るさとパワーを結集していただいて、超高齢社会、そしてウイズコロナ、ポストコロナにおける地域の新しい高齢者就業の形を築いていただきたいと思っています」と期待を述べた。

### 村木厚子氏の基調講演 誰かのためにが支えに

基調講演は、講師に元厚生労働事務次官の村木厚子氏を迎えて行われた。現在は津田塾大学客員教授を務めるほか、企業の仕事や果犯障害者の支援、生きづらさを抱える若年女性を支援するNPOの活動に携わっている。



基調講演を行った村木厚子氏

基調講演は、「人生百年時代をどう生きるか」女性の元気は社会の元気」をテーマに、働くことの大切さ、困難に遭遇した際に学んだこと、変化の速い時代への対応の仕方、地域で活躍する人々のことなどを語った。

村木氏は厚生労働省の官僚として働いていた平成二十一年、予期せぬ逮捕で罪に問われて拘留され、翌年に無罪が確定して復職。その後、事務次官を務めた。拘留所での百六十四日間は家族や職場の弁護士の支えがあつて耐えることができ、その際に、「誰かのために」は強い、ということを実感した」と切々と語った。「娘のために

頑張ろう」という気持ちだが、自身を支える力になったという。

また、変化の速い現代を生きていくには「学び続けること」が大それたことだと語るなど、自身の経験や出会った人々の姿を通して、高齢世代の生き方のヒントを示し、最後に、「私は六十四歳と十一か月です。もう少し頑張ってみようと思えます。皆さんはどうですか」と笑顔で問い掛けて講演を締めくくった。

## 地域の活性化にとってなくてはならないシルボンヌ

休憩を挟んで再開した第二部冒頭では、国会を終えて駆け付けた参議院議員の片山さつき氏が来賓あいさつを述べた。片山氏はシルバー人材センター事業とのこれまでの関わりなどを語りつつ、新型コロナウイルスの影響により現在は困難な状況が続いているが、「シルボンヌの皆さまの細やかなお心遣いで、シルバー人材センターの活動の灯をともし続けていただけたらと思



参議院議員の片山さつき氏

います」と語った。また、「シルバー人材センターの女性活躍の分野には学童保育や介護施設とのコラボレーションなど、まだまだ多くの可能性があります。遊休農地や空き家の活用などについても、皆さまからお付きの点をお声掛けいただきたいと思っています。地域の活性化にとって、シルボンヌはなくてはならない存在だと考えています」と力強く語り、会場を湧かせた。

## パネルディスカッション 女性会員の活躍事例

続いてパネルディスカッションが行われ、パネリストに全シ協の金子順一会長、焼津市SCの山本

朋美常務理事兼事務局長、角田市SCの佐藤久美子事務局長、狛江市SCの池田あけみ常務理事兼事務局長が登壇。コーディネーターを奈良県SC協議会の宇田会長が務め、三センターの事務局長が、女性会員の活躍事例を紹介した。

### ●焼津市SCの活躍事例

市の委託を受けて運営する「かがも放課後児童クラブ」事業を紹介。女性会員を含む多数の会員がスタッフを担っている。年長者ならではの知恵や特技を「人財」として生かし、伝承遊び、季節の行事、読み聞かせ、クッキング、楽器演奏などで子どもたちと触れ合って入所希望者が増加。就業会員は子どもから元気をもらい、生きがい結び付いていると語った。

### ●角田市SCの活躍事例

「街なか交流サロン ひだまり」事業を紹介。市民が気軽に立ち寄って交流できる場として、平成二十六年にオープンした。会員が管理者を務めて平日は毎日開いてい

る。会員の特技を生かした着物リフォームやパソコン講座などの開催、老人福祉施設や行政、商店、企業と連携して多様な取り組みを実施。管理者を含めて常時十五、二十人が集うサロンになった（平成三十年度実績）と報告した。



パネルディスカッションでは、3センターの活躍事例を紹介。登壇したのは、写真右から焼津市SCの山本朋美常務理事兼事務局長、角田市SCの佐藤久美子事務局長、狛江市SCの池田あけみ常務理事兼事務局長。写真左は全シ協の金子順一会長



サブ会場では全国の女性会員が独自事業として製作・販売している小物や農産物、就業やサークル活動などで生き生きと活躍する姿を映像やパネルで紹介

「事例発表を聞いて、皆さんも元気がなったのではないのでしょうか。女性が元気だと男性も元気になると言われます。女性の持つ細やかな気遣いや心遣いを地域で発揮し、またセンター事業にこれからも生かしていただけたらと思います。女性がいきいきと活躍できるセンターを目指して女性会員のさらな

● 狛江市SCの活躍事例  
 五年間で会員数が約二百人増加し、半数が女性会員と発表。会員増加の秘けつは、入会後すぐに就業を提供し、地区を通して仲間意識を高めて、さまざまなイベントに誘って共に楽しむこと。保育分野などで女性会員の就業機会を増やす一方で、セミナー開催などで会員数を拡大。会員を誘うイベントは新春の集い、盆踊り、多摩川いかだレースなど多様で、職員も一緒に楽しんでおり、「お金では買

えない価値をセンターに感じている」と話した。女性会員からは「センターは楽しい」「感謝している」「もつと早く入会すれば良かった」などの声が聞かれていると紹介して、「一緒に楽しくシルバー人材センターを変えていきましょう」と呼び掛けた。  
 質疑応答の後、全シ協の金子会長が女性会員活躍事例の感想と今後のセンター事業の運営の仕方として、「地域ニーズに応える仕事を行い、地元の自治体と程よい距離感で連携して進んでいくことが大事である」などと述べた。  
 奈良県SC協議会の宇田会長は

TOPICS

～シルボン又全国大会実行委員会で決定！～

◆女性活躍促進に向けた「シンボルマーク」

「全国のシルバー人材センターの女性会員は、仕事にボランティアやサークル活動にと元気に活躍しています。会員でない方も、会員になって、自分色の花を咲かせていただきたいという思いを込めて、女性と花が同化したシンボルマークを作成しました。全国のシルバー人材センターでは、このシンボルマークを掲げ、女性が生涯活躍できる社会を目指します。



◆女性活躍促進に向けた「キャッチフレーズ」

「ありがとうは魔法の言葉」

「全国のシルバー人材センターでは、女性活躍促進に向けたキャッチフレーズとして『ありがとうは魔法の言葉』を掲げて、会員、利用者をはじめ、すべての皆さんから『ありがとう』と言ってもらえるシルボン又全国大会を目指します。」

★シルボン又全国大会の様子は全シ協ホームページで配信中！

<http://www.zsjc.or.jp/>

る拡大に向け、皆さんと一緒に輝いていきたいと思えます」と述べて第二部を締めくくった。  
 最後に、実行委員会の八人が登壇して「大会アピール」(十ページ

参照)を読み上げ、拍手で採択。閉会の言葉を受けて、会場には拍手が長く続き、初の大会は熱気に包まれるうちに終了した。  
 (増山美智子)



「シルボンヌ全国大会 IN TOKYO 2020 実行委員会」のメンバー。写真左から、愛知県SSC連合会の伊藤谷子会長（全シ協理事）、大木町SSCの猿渡知子常務理事兼事務局局長、山口県SSC連合会の浜田美智子常務理事兼事務局局長、奈良県SSC協議会の宇田秀子会長（全シ協理事）、焼津市SSCの山本朋美常務理事兼事務局局長、狛江市SSCの池田あけみ常務理事兼事務局局長、山武市SSCの津久井知世常務理事兼事務局局長、喜多方市SSCの藤本容子理事長（全シ協理事）

## シルボンヌ全国大会 IN TOKYO 2020 大会アピール

人生100年時代といわれる今、長くなった生涯をいかに生き生きと過ごすことができるかが誰にとっても大変重要なこととなっています。

シルバー人材センターは、「自主・自立、共働・共助」の理念の下、高齢者が就業という形で地域社会に貢献し続けていくことで、健康寿命を延ばし、もって次世代を支え、地域の活性化にも資することができるという事業であり、超高齢社会にあって、今まさにその真価が問われる時代となってきています。

シルボンヌ全国大会は、シルバー人材センターの会員100万人達成計画の実現に向けて、女性会員を拡大するため、より多くの皆さんに女性会員の活動を知っていただくことを目的として初めて開催いたしました。

あいにく新型コロナウィルスの感染予防対策を講じての開催となりましたが、オンラインでの配信を行うなど広く皆さんにご参加いただけるよう工夫をいたしました。

「ありがとうは魔法の言葉」というキャッチフレーズのとおり、会員、職員、利用者をはじめすべての皆さんから感謝をしていただけるシルバー人材センターを目指して、力を合わせ、心を合わせて大会アピールを宣言いたします。

- 1 超高齢社会において、一人一人が「居場所」と「役割」を持ち、生涯幸福感を持ち続けることができるために、シルバー人材センターをより多くの皆さんに知っていただけるよう普及啓発に努めます。
- 2 高齢者の助け合い、子育て支援、空き家管理など地域課題や人手不足分野での就業を積極的に進め、地域社会への貢献を目指します。
- 3 多様化する女性の生涯の中で「就業」という選択肢があることをより多くの女性が認識し、行動できるよう、女性のエンパワーメント（能力開花）につながる事業を推進し、女性会員を増やします。
- 4 会員100万人達成計画の実現に向けて、女性会員拡大を目標とした「シルボンヌ全国大会」を継続的に実施するとともに、女性役職員のネットワークを構築するための「シルバー人材センター全国女性代表者会議」と連携して開催することを強く要望します。

2020年11月25日

シルボンヌ全国大会実行委員会